

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

屋久島町立宮浦小学校 教諭 稲留 愛

1. 単元名 「かがやく未来に向かって -屋久島の未来のために-」 単元を貫く探究課題「屋久島の未来とわたし」

2. 単元目標

- ・ 資源カードを使ってアイテムを作っていくゲーム活動（屋久島版 GetThePoint）を通して、持続可能な社会を作ることの必要性について理解することができる。（知識・技能）
- ・ 屋久島の現状からよさや課題を見だし、屋久島のよりよい未来に向かって自分たちにできることを考え、発信することができる。（思考・判断・表現）
- ・ 課題解決に向け、進んで取り組もうとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元について

（1）教材観

単元導入で扱う「GetThePoint」は、鉄・レアメタル・化石燃料・木材・動物・植物の6種類の資源カードを使って、生活に関連する10種類アイテムを獲得し、ポイント数を競うシンプルなボードゲームである。資源は、有限資源と再生可能な資源に分かれており、資源回復ルールに従って、一周するごとに一部の資源は回復することができる。この抽象化された「世界」において、たった一つのルールのアレンジで、「奪い合い競争する世界」と「持続させるために協力する世界」の2つの物語を体験していくことができる。2つの世界を経験し、自分自身の経験を比較することで「持続可能な社会とはどういうことか。」「なぜ持続可能な社会を作る必要があるのか。」という問いをもちながら、循環型社会に必要な姿勢や心構えについて理解を深めることができる。「屋久島の未来を考えることは地球の未来を守ることにつながる」ということを捉えさせることで探究意欲につなげたい。

（2）児童観

児童は、これまでの総合的な学習の時間の様々な体験活動を通して、地域の人々の暮らしや伝統・文化、世界遺産に登録された屋久島の自然や歴史について学習してきた。修学旅行では、鹿児島県の偉人から、様々な問題に対処する問題解決能力や実行力について学び、自己の生活に生かしたり、島外から見た屋久島について考えを深めたりする姿が見られる。未来の屋久島や自分の姿を想像し、よりよくするために何ができるのか、多面的に探究的な学習を深められるようにしたい。

（3）指導観

本単元の指導に当たっては、まず、屋久島版「GetThePoint」というボードゲームを行い、抽象化された2つの世界を体験する。このことを通して、資源の有限性を知り、環境保全や持続可能な社会を目指すことの大切さに気付かせたい。また、講師の方から世界や屋久島で起こっている環境問題についてクイズを出題しながら話しをすることで、自分事として課題を捉えさせ、よりよい屋久島未来を想像し、行動しようとする意欲をもたせたい。

次に、「屋久島の未来のために」何ができるのか、それぞれに追究したい探究課題を設定して学習計画を立て、探究的な学習を進めていく。児童が主体的に学習を進められるように、情報共有や協働的な学びが自由に行える場を設定する。また、体験活動に取り組む児童には、活動することが目的化しないように、「何を明確にするために行うのか」等の問いかけをして意識付ける。さらに、屋久島環境文化村センターの職員に、児童の提案や取組の相談に応じてもらうアドバイザーになってもらい、授業を参観しながら児童の状況に応じた専門知識や意見交流を行い、新たな発見や課題を見付け

ることができるようにしたい。

そして、学んだことや取り組んだことをまとめたり発信したりする場（校外のイベント参加も予定）を設定し、様々な人の考えや意見が交流できるようにする。また、聞く視点を与えることで、知識を再構築して考えをもったり、自分の探究課題の課題解決のヒントや学びを得たりすることができるようにする。さらに、学習記録を見返すことで、児童が自分の取組や考えの変容を振り返り、学習成果や自分の成長を実感できるようにして、新たな探究的な学習につなげていきたい。

（４）ESDとの関連

○ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・ 相互性… 人口が増えると経済成長が期待できるが、環境破壊の恐れがあること。
- ・ 有限性… 資源は限りがあり、使い捨てが当たり前になると資源が減り続けてしまうこと。
- ・ 責任性… 世界遺産屋久島の姿を維持するには、私たちの一人一人の行動が大切であること。

○ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・ 未来像を予測して計画を立てる力
… 持続可能な屋久島の姿を想像し、何をすることが大切か考える。
- ・ 多面的・総合的に考える力
… 屋久島に対する様々な考えに触れ、自分なりの考えをもつことができる。

○ この学習を通して育てたい ESD の価値観

- ・ 自然環境や生態系の保全を重視する。
… 自然と共生し、環境や生態系を保全していくためには、どのような取組が行われてきたのかを知り、自分たちにできることを考え、引き継いでいこうとすることができる。
- ・ 幸福感に敏感になる。
… 便利さや快適さの追求だけでは世代を超えた幸福感につながらないことに気付き、豊かさとは何かを追究することができる。

○ 達成が期待される SDGs

- ・ 11（まちづくり）、12（生産と消費）、13（気候変動）、14（海洋資源）、15（陸上資源）

4. 単元の評価規準

知識及び 技能	① 持続可能な社会の必要性について理解することができる。 ② 屋久島の未来を多面的に捉えて想像し、地域や自己の将来について課題を見つけることができる。
思考力、 判断力、 表現力等	① 専門機関や地域の方の話を聞いたり、インターネットや本で必要な情報を収集したりして、相違点や共通点をまとめることができる。 ② 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し、考えることができる。 ③ まとめたことや考えたことを自分なりの方法で分かりやすく表現することができる。

主体的に学習に取り組む態度	① 課題解決に向け、郷土や地域、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとすることができる。 ② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとすることができる。 ③ 地域の一員や自己の生き方と結び付けて考え、自分にできることを実践することができる。
---------------	---

5 単元の指導計画（全28時間）

学習過程（時間）	活動内容	学習への支援	評価
1 GetThePointを通して、持続可能な屋久島の未来を想像しよう。（4） ※単元ゴールを共有	・ゲームや講師の話から、 持続可能な社会を目指すことの必要性 について理解する。	・屋久島版 GetThePoint を活用することで、資源の使い方による地球や自分たちへの暮らしへの影響を体感させ、課題意識をもたせる。 ・「 未来の屋久島をどのようにしていきたいか 」 考えを記録 しておく。（ワークシート）	知①
	・持続可能な社会、屋久島のよりよい未来にするために自分たちに何ができるか 探究学習の計画を立てる 。	・未来の屋久島がどうなっていてほしいかを全体で共有し、どのように探究的な学習を進めていくか話し合いをすることで、一人一人が追究したい探究課題を設定できるようにする。	知②
2 屋久島の現状と考えられる未来を探り、持続可能な社会、よりよい屋久島の未来に向けて自分にできることを見つけよう。（20） ※ 中間発表を行う。 ・調べる ・（体験する）	・体験したことや学習したことを想起し、 専門機関や地域の人との関わり をもちながら調べ学習を行い、実態を明らかにする。 ・インターネットや本、インタビュー等を通して情報を収集する。 ・実際にごみ拾いを行う等の体験活動をする。 ・ 屋久島町や他所の取組、これまでの学習経験を参考にして自分たちが発信できることを決める 。	・総合的な学習の時間での学習の仕方の説明を行い、探究的な学習のイメージをもたせる。また、探究カードを毎時間活用してめあてを立てることで、自分で目的を明確にして探究的な学習を進められるようにする。 ・めあてや振り返り、成果物の共有、学習形態（個人・ペア・グループ・全体）や学習方法（活用したい人・物・事・場）を選択、発表（形成的評価）の場を設定することで、児童が相互に情報共有や協働的な学びが自由にできるようにする。 …共有の仕方（黒板・ロイロノート・掲示） …活用できる学習材の準備 人（環境文化村センター職員） 物（NHK 動画・イマジン屋久島 HP・屋久島類似の例 等） 事（屋久島未来ミーティング 等） 場（教室・図書室・多目的室 等）	思① ② 主①
・まとめる （中間発表会）	・相手に分かりやすく伝えたり、今の自分たちにできることについて	・中間発表会を予定することで、発表に向けてこれまでに集めた情報や体験から分かったことをまとめ、相違点や共通点を整理す	思③

往還する

	<p>根拠を明らかにしながら伝えたりするためにまとめ・表現の方法や手段を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分たちにできることについて発表し合い、いろいろな考えや取組について共有する。 	<p>ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の方法や手段を示し、選択させることで、児童が自分の発表を相手によりよく伝えるために一番相応しいものを考えることができるようにする。 ・多くの人と情報共有することができるようにするために、ワールドカフェ方式で発表したり、発表に使用する資料等を予め共有したりしておく。 	
3 屋久島の未来のために続けたい取組を発信しよう。(2) (発表会)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋久島の未来のために続けていきたい取組を発信する。(異学年交流発表や参観発表、町イベント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・見る視点を与えて発表に参加することで、相手の考えや取組内容、伝え方を自分と比較して捉えることができるようにする。 	主②
4 学習のまとめをしよう。(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや取組んだことを振り返り、「屋久島の未来とわたし」に結び付けてまとめ、次の探究課題につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く探究課題「屋久島の未来とわたし」を意識させることで、次の探究課題につなげられるようにする。 ・学習記録を見返すことで、児童が自分の取組や考えの変容を振り返り、学習成果や自分の成長を実感できるようにする。 	主③